

茶室覚書

小堀遠州 京都 龍光院書院16一 国宝 密庵席
四畳半台目下座床 みったんせき

床：張付壁で真塗框、なぐりのある床柱
 中柱：一面に釘目を施した真の杉丸太
 違棚：上下に袋棚、中に三段の棚 小襖は松花堂昭乗の筆
 引手、棚板の金具、はめ板の透かし彫りなど精巧
 茶道口と給仕口：四本腰高障子 框と舞良棧は赤溜塗、腰には銀地に遠州好みの唐紙を張る
 書院床（密庵床）：目隠している密庵禅師の法語の墨蹟（国宝）を掛けるための場

- ・書院のデザインで大名茶の風格
- ・面皮柱と角柱を交ぜ、長押を付け、七宝入の釘隠を打ち、張付壁、床と違い棚および書院床を構え、腰高障子で外には縁高欄を回した書院造り、この書院床の並びに台目の点前座
- ・点前座は落天井とし杉丸太の真直ぐな中柱を立て、中拵なかもく杉板の袖壁に雲雀棚をつり台目切炉とする 板床の落掛と同高に丸太を通して壁止め この装置だけが草庵の意匠 他の天井は棹縁天井

